# ニガクリタケ Hypholoma fasciculare

# モエギタケ科クリタケ属

## 概要

地方名	はな, にがくり, くりたけのはな (長野市), どくあがた
	け、どくあかもだし(秋田県)、すずめたけ(青森県)、
	にがっこ(にぎゃっこ,にがこ)(東北地方)
傘の大きさ	2~5cm 程度の小型
形と色	傘 : まんじゅう形からほぼ平らに開く。表面は湿り気
	を帯び、やや吸水性で黄褐色。中心部が黄褐色で周辺部
	が硫黄色を示す。周辺部に初めクモの巣状の被膜の名残
	を付ける。
	ひだ:柄に対してくっついており(湾生),密である。オ
	リーブ緑色。
	柄 : 細長く,下部は繊維状で光沢が見られる。
発生時期	年間通して発生
発生場所	広葉樹及び針葉樹の枯れ木や倒木などに東生~群生す
	る。
その他	肉が非常に苦い。
症状	食後3時間程度で強い腹痛,激しい嘔吐,下痢,悪寒な
	どの症状が現れる。
	重症の場合は脱水症状,アシドーシス,痙攣,ショック
	などの症状が現れて死亡する場合がある。
毒性成分	カルモジュリン阻害活性を持つファシキュロール,ファ
	シキュリン酸の他、ムスカリン類。
間違えやすい食用きのこ	ナメコ, クリタケ, ナラタケ, ナラタケモドキ

## (写真図説)

ニガクリタケは、傘がレモン色から茶色のものがある。



ひだはオリーブ色(うすい緑)(上)

#### よく似ている食用きのこ

クリタケは栗色から茶色で傘の大きさは 3~8 cm 程度, 幼菌では傘に繊維状の破片のようなもの (赤矢印) が見られる。ひだは白から黄土色になる。柄はニガクリタケよりは少し太めである。



### 詳細

#### 1 特徴

(1) 毒性成分

(成分名)

\*2

ファシキュロール類 (fasciculol A-F), ファシキュリン酸類 (fasciculic acid A-C), ムスカリン類

(構造式)

Fasciculol A の IUPAC 名

[(2R, 3R, 5R, 10S, 13R, 14R) - 17 - (5, 6 - dihydroxy - 6 - methylheptan - 2 - yl) - 4, 4, 10, 13, 14 - pentamethyl - 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17 - tetradecahydro - 1H - cyclopenta [a] phenanthrene - 2, 3 - diol]

分子量: 476.73 (g/mol)

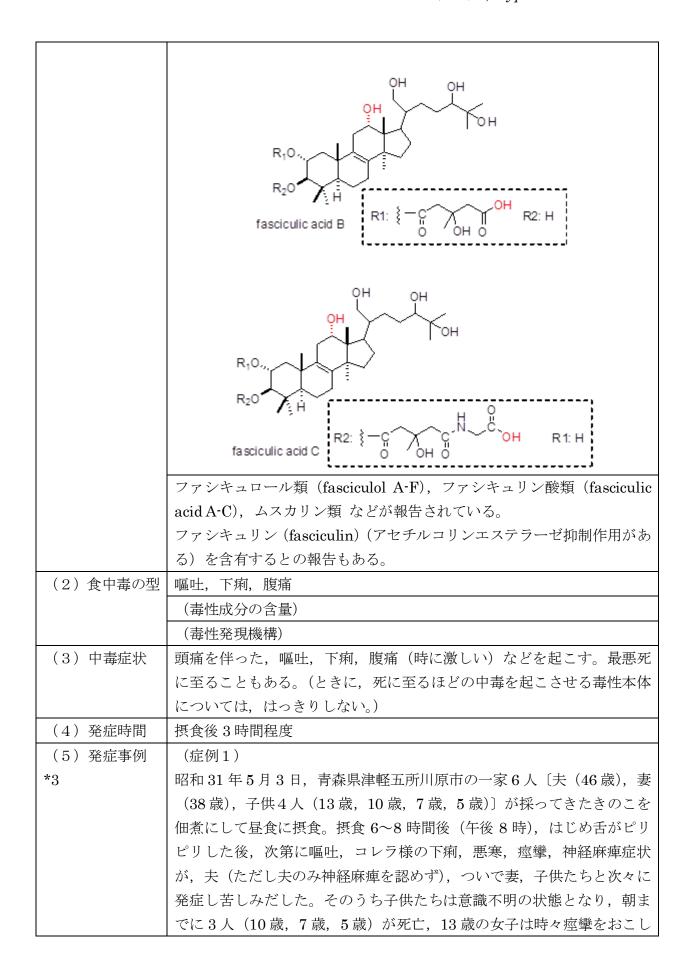
分子式: C30H52O4

Fasciculol B の IUPAC 名

[(2R, 3R, 5R, 10S, 12S, 13R, 14S) - 17 - (5, 6 - dihydroxy - 6 - methylheptan - 2 - yl) - 4, 4, 10, 13, 14 - pentamethyl - 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17 - tetradecahydro - 1H - cyclopenta [a] phenanthrene - 2, 3, 12 - triol]

分子量: 492.73 (g/mol)

分子式: C<sub>30</sub>H<sub>52</sub>O<sub>5</sub>



重体であったが、摂食 65 時間後一時意識が回復、症状は軽くなるかに見えたが、その後腹部から首にかけて紫斑が出現、摂食 3 日後 (6 日朝) 急死。4 人はいずれも肝腫大、黄疸などの肝障害、神経麻痺により死亡している。母親は嘔吐、コレラ様の下痢、痙攣があり、一時意識不明となったが、4 日後に回復。夫は嘔吐下痢、腹痛のみで 20 時間後に回復。症状はドクツルタケの中毒に似ていた。夫婦が肋かったのは、まず子供にたくさん食べさせ、残りを親が食べたために、摂取量が少なかったからである。

#### (その他)

平成 8 年 9 月 7 日,岐阜県恵那市内の山中で採取したきのこを,9 日午 後 6 時頃,家族 5 人で夕食のすき焼きに入れて食べたところ,5 人中 4 人が食後 2 時間から 4 時間で嘔吐,下痢などの食中毒症状を示し入院した。

平成 13 年 11 月 15 日, 宇都宮市内でニガクリタケとクリタケをスッポンタケ, ベニナギナタタケとともに採取し、醤油で炒め煮として摂取した。妻は少量を摂取して 30 分後に 2 回嘔吐。夫は一握りの量を摂取して 30 分後に嘔吐と下痢を各 5 回。夫は入院後、脱水症状、傾眠、急性腎不全を起し、胃の洗浄、吸着剤、下剤投与、輸液、人工透析などの処置を行ったが、11 月 23 日に死亡した。

(6) 中毒対策

早急に医療機関で診察を受けるべきである。

#### 2 毒性成分の分析法

(1)	(説明)
	(図解)

### 3 その他

諸外国での状況	北アメリカ、ヨーロッパなどの地域にも分布する。
参考になる情報 *4	トリウム (3.63 μg/g) やウラン (4.13 μg/g) を蓄積しやすい。

#### 4 間違えやすい食用きのこ

1	一般名	クリタケ (モエギタケ科クリタケ属)
	学名	Pholiota lubrica (Pers.:Fr.) Sing.
	発生場所	
	発生時期	
	形態	クリタケは傘が栗色をしている。
		ニガクリタケはかむと強い苦みがあるので、区別する。

#### 引用·参考文献

1) 長沢栄史.「フィールドベスト図鑑 14 日本の毒きのこ」(株) 学習研究社

2)

Suzuki K, Fujimoto H, Yamazaki M.: The toxic principles of *Naematoloma fasciculare*. *Chem Pharm Bull.* **31**, 2176-2178 (1983).

Kubo I, Matsumoto A, Kozuka M, Wood WF.: Calmodulin inhibitors from the bitter mushroom *Naematoloma fasciculare* (Fr.) Karst. (*Strophariaceae*) and absolute configuration of fasciculols. *Chem Pharm Bull.* **33**, 3821-3825 (1985).

Takahashi A, Kusano G, Ohta T, Ohizumi Y, Nozoe S.: Fasciculic acids A, B and C as calmodulin antagonists from the mushroom *Naematoloma fasciculare. Chem Pharm Bull.* **37**, 3247-3250 (1989).

- 3) 編著者: 奥沢康正, 久世幸吾, 奥沢淳治. 「毒きのこ今昔-中毒症例を中心にして-」(株) 思文閣出版
- 4) Juan A. Campos, Noel A. Tejera, Carlos J. Sa'nchez.: Substrate role in the accumulation of heavy metals in sporocarps of wild fungi. *Biometals* **22** (5): 835-841 (2009).